

【支援内容】

- ・日中の活動支援。
- ・365日の衣食住の支援。



【定員】

- ・生活介護 35名
- ・短期入所 5名
- ・施設入所 30名
- ・日中一時支援 3名

【開所日・時間】

生活介護事業 月～金 9:30～15:30
(土、日、祝祭日、夏季・冬季の長期休暇はお休み)

日課・時間割

ふじみのさとでは平日は生活介護事業・休日は入所支援事業を中心とした支援を行なっています。

時間	平日	休日
7:00		起床
8:00		朝食
9:00	コーヒータイトム・余暇	
9:30	利用者ミーティング・通所利用者送迎(平日)	
10:00	作業(制作活動・外注など)	余暇日課
12:00	昼食・昼休み	
13:30	余暇日課・趣味活動など	余暇日課
15:00	お茶(水分補給)	
15:30	入浴準備・通所利用者送迎(平日)	
16:00	入浴	
18:00	夕食	
19:00	コーヒータイトム・余暇	
21:00	消灯	

主な年間行事

《利用者》

- ・県西地区みんなのつどい
- ・夕涼み会
- ・バス旅行
- ・クリスマス会
- ・昼食外出(年3回)
- ・特別外出
(不定期・外部のイベントなど)
- ・ボランティア交流
(立花学園・茶道・LIVEなど)



《職員》

- ・新人オリエンテーション(通年)
- ・法人のつどい
- ・自主勉強会(月1回程度)
- ・県新人研修
- ・てんかん研修
- ・自閉症研修
- ・法人内各種研修



- JR御殿場線「上大井駅」より1.1km、徒歩約14分。
- JR東海道線「国府津駅」より、富士急バスの[小14]新松田駅行(下曾我駅経由)に乗車(約20分)。
→「窪田」バス停下車。
- 小田急線「新松田駅」より、富士急バスの[国02]国府津駅行、[小14]小田原駅行(下曾我経由)に乗車(約10分)。
→「窪田」バス停下車。

アクセスマップ

所長ごあいさつ 「福祉の仕事」は職員も「幸せ」を感じられる

皆さんは、福祉のサービスや福祉の仕事って「特別な人のもの」と思っていますか? そうでもないのです。人は誰でも歳をとれば老人福祉の対象になりますし、学校の建物や物品にも福祉事業の補助金が使われていて… そして保育園も福祉サービスの一つなので、けっこう私たち福祉サービスを使っているんです。

それから、福祉の仕事をしている人って、なんか「福祉バカ」みたいに「福祉一筋!」っていう特別な人がやってるんじゃないか。と思う人が少なくないようですが、これまた案外そうでもないんです。

特にふじみのさとのように、大人の方の入所事業所の仕事を眺めてみると… 例えば、お風呂に髪を乾かすお手伝いをするときは、なんちゃって美容師さんで、Dr.と話をするときは、医学知識も必要になります。お薬の話をするなら薬剤師さんと渡り合い、権利擁護の話をするなら、弁護士さん並みに権利意識を高めなければなりません。食事の話なら栄養士さんと…とちょっと考えただけでも、これだけの幅広い知識を網羅するのです。

福祉の仕事に就いてから、「この知識を深めたい」とか「これは、任せといて!」というように、得意分野を生かしたり「これを極める」とやりがいを見つけられる、とっても間口の広い仕事なんです。

ふじみのさとの皆さんの日々の生活を支え、人生を共に歩むことで私たち職員も豊かな人生を送ることができる… そんな仕事だと考えています。 所長 木村 恭子

〒250-0201
神奈川県小田原市曾我大沢7
TEL: 0465-41-4020
FAX: 0465-41-2777
【URL】 <http://houan1900.jp/facilities/fujiminosato/>



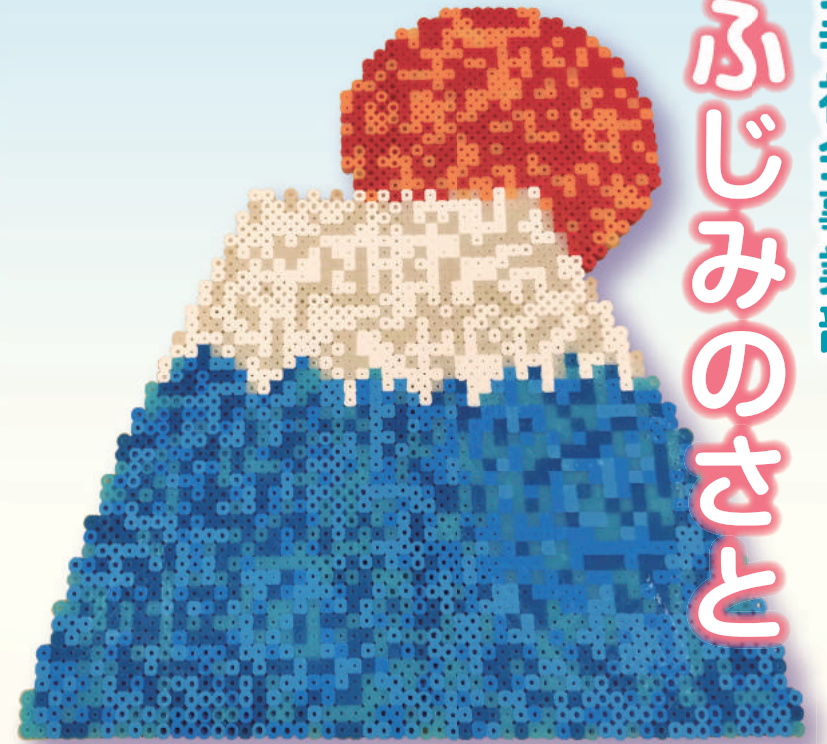
社会福祉法人宝安寺社会事業部

ほうあんふじみのさと

障害者支援施設

生活介護・短期入所・施設入所

日中一時支援



楽しく

暮らしを

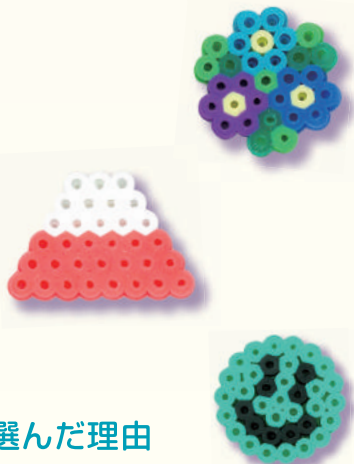
支える

青空と富士山に見守られて。
つばめ・カエル・雉たちの鳴き声が響く、
自然豊かなこの曾我大沢で
自分らしい生活をおくりましょう!

私たちの使命



- みんなに24時間365日安心を届けます。
- 利用者が笑顔で自分らしくいられる支援をしていきます。
- 開かれた施設を目指し、みんなの架け橋になります。



この仕事を選んだ理由

【わたしのやりがい】

わたしは、人は自分自身が幸せと感じて生きていないと、他者を幸せにすることは難しいと考えます。そして、自身が傷つき、辛いことを経験しないと、人の傷みや苦しみ、悲しみに想いを馳せることもできないと思います。

わたしが大切にしていることは、クオリティオブライフ。誰もが思うように、望むように生きることができること。生きていくと、日々、色々なことがあります。「なぜ？」と思うことも、沢山あります。でも、答えは

誰も教えてはくれなくて。だからこそ、この仕事を通して、真のクオリティオブライフを追求してみたいと想い、この道に進みました。わたしは、

この仕事に携わり、支援の醍醐味を味わい、人が人を支援することほど奥深いものはないと感じています。

【支援員としての仕事。利用者さんに寄り添い、暮らしを支える。楽しく生きていけるように】
シンプルですが、実に奥の深いことです。支援員であるわたしもひとりの人間。日々、様々な心模様の中、それでも変わらず目の前には利用者さんがいます。わたしの心模様が雨でも、利用者さんの前に行けば自然に晴れに変わる。この瞬間が、最高に大好きです。

利用者さんの笑顔が支えてくれる

日々過ごす中で声掛けや支援等の関わりについて葛藤があり、利用者の方に言葉や行動等で上手く伝わらない時には「今度は別の声掛けをしてみよう」と次なる挑戦が生まれることも多くありますが、利用者の方から「〇〇してくれてありがとう」「廣瀬さんのおかげで落ち着けたよ」などと言葉や時には行動で表現してくださると、あの場面で伝えて良かったと実感することがあります。また、日常生活を過ごす中で利用者さんの笑顔を見ると元気のパワーを貰え私のやりがいに繋がります。



生活介護支援 支援員 廣瀬由美香

“やりたい”を叶える

ふじみのさとのでは永遠のテーマとして「やりたいを叶える」を掲げています。

Hさん

統合失調症への支援で紙ちぎりが必要な作業でしたが、「ビーズ作品を作りたい」という熱い気持ちのもと、大きなビーズをテグスに通す練習から行いました。数年後には3mm程度のビーズを使用し、ビーズ絵を完成されました。

Mさん

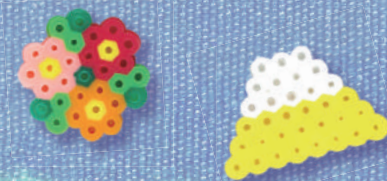
電車・バス大好きなMさん。同じく乗り物大好きな職員と一緒に電車・バスを巡る小旅行へ出かけました。ご本人の強い希望を叶えることももちろんですが、同じ趣味を楽しむ喜びもお仕事の醍醐味の一つです。



挑戦する

《背景》平成30年度県西地区文化事業 銀賞「小田原城」(作:松村さん&宮崎さん)

H30年度県西地区文化事業にクラフト班として「さとの好きなたべもの」を出展し、金賞を受賞しました。こちらはふじみのさとの皆さんより好きな食べ物を募集し、それをもとに制作されました。班のメンバーは制作が終了しても「やりたい!」と言うほど夢中になり、現在もアイロンビーズを使用する販売作品作りを続けています。



楽しむ



私たち支援員が自分の趣味や余暇を楽しむことで日々の活力につながっている様に、利用者の皆さんも個々の「楽しみ」があります。施設生活という限られた時間・空間の中、また個々の障害特性を考慮した上でどれだけ笑顔で自分らしくいられるように「楽しみ」を提供できるか。ふじみのさとの職員にはそのスキルが求められます。



主な行事として、昼食外出・夏祭り・クリスマス会・バス旅行など行っています。その他にも地域のお祭りやイベントに出掛けたり、七夕・虫とり・ハロウィンなど季節のレクを楽しんだり、バラエティとアイデア豊かな行事提供を行っています。

